**「新・水害に強いまちづくり」の実現に向けて**

問い合わせ　都市計画課事業調整担当 電話23-8069

　近年、頻発化する傾向にある水害に備えるため、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の推進、および水害に強いまちづくりの推進が急務となっています。

　市では、令和元年東日本台風をはじめ、これまで多くの水害を経験している鹿島台地域を対象に、一般社団法人 東北地域づくり協会と、流域の特性に応じた効果的な水害対策の共同研究に取り組んできました。

　この共同研究では、住民自ら地域づくりを考えるワークショップを実施するとともに、治水の専門家から意見をいただき、令和4年10月に研究成果を報告書として取りまとめました。

　今後、この報告書で検討した「新・水害に強いまちづくり」を推進していきます。

**「新・水害に強いまちづくり」**

　「吉田川堤防の決壊リスクを低減させる」ことを流域の共通目標としつつ、「万が一堤防決壊による氾濫や大規模な内水氾濫が発生しても、早期に普段の生活を取り戻す」ことを目標に加え、次の対策に取り組んでいきます。

（１）吉田川堤防の決壊リスクを低減させるために

・（※）や遊水地など貯留施設の整備、田んぼダムの推進

・堤防の効果的な強化対策や維持管理の実施

※洪水時の水位を低下させるため、河道を掘り、水が流れる断面積を広くすること。

（２）堤防決壊による氾濫が発生しても早期に普段の生活を取り戻すために

・高い防災意識をつないでいく地域の取り組みと市の支援

・宅地地盤のかさ上げによる浸水深の低減

・既存排水機場の稼働や効率的な排水による浸水時間の短縮

（３）大規模な内水氾濫が発生しても早期に普段の生活を取り戻すために

・雨水排水計画の一層の促進

・雨水計画区域外からの流入を抑制する氾濫域のブロック化

**田んぼダム装置**

写真：自動給排水栓

写真：ロート型堰板

**鹿島台 志田谷地地区　地域づくりを考えるワークショップ**

**住みよい志田谷地地区を目指して**

　地域住民が一体となり、暮らしをめぐる課題を考えるとともに、令和元年東日本台風による被害を振り返りながら、持続的に発展できる地域づくりについて話し合いました。

**「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究専門家会議**

　3回にわたり開催した「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究専門家会議では、治水の専門家から意見をいただきました。

写真：国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター長

小池 氏

写真：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教養教育院 総長特命教授 田中 氏

写真：公益財団法人 リバーフロント研究所 代表理事 塚原 氏

　今後、市では「新・水害に強いまちづくり」の実現に向け、国や県、流域市町村をはじめ、地域住民と連携し、安全で安心な地域の発展につながるまちづくりに取り組んでいきます。

　また、今回取りまとめた研究の成果を市内の水害対策に波及させていきます。